

市が諮問していた「うるま市総合計画案」に対するうるま市総合計画審議会の意見がまとまり、11月7日、島袋秀光会長から知念市長に答申書が手渡されました。

うるま市総合計画案では、3つの理念のもと「人と歴史が奏でる自然豊かなやすらぎと健康のまち」を将来像として掲げ、その実現に向けて5つの施策が基本目標として設定されています。

これに対して、同委員会は、「おおむね適切であると認めます。」と答申しました。また、「総合計画の策定と推進にあたっては、合併効果が最大限発揮できるよう、市長のリーダーシップのもと職員の英知を結集し、真摯に取り組んでほしい」と述べられ、「総合計画の趣旨や内容についての周知に努めるとともに、本計画の実現に向けて、市民、企業、行政などが情報を共有し、市民参画と協働によるまちづくりをすすめていただきたい。」「計画の推進にあたっては、本市の恵まれた立地環境や特色ある地域資源を生かすとともに、地域バランスを考慮し、新市の均衡ある発展に努めていただきたい。」などを含めた5つの提言がなされました。

**総合計画審議会が 11/7 「市総合計画(案)」について答申**



▲ 知念恒男市長へ答申書を手渡す島袋秀光審議会会長

**新エネルギーってすごいな! 10/26**



▲ 新エネルギー教室でエネルギーについて学ぶ子どもたち

市では新エネルギー（太陽光や風力等）ビジョンの策定、公共機関で県内初のESCO事業を推進していることから、新エネルギー等を広く市民に知らせ、また次世代を担う子どもたちに導入の重要性を理解してもらおうと、「市新エネルギー教室（資源エネルギー庁・沖縄総合事務局・うるま市主催）」を市立伊波小学校で開催しました。

同教室には、5年生119人が参加。子どもたちは新エネルギーについての勉強やビデオ鑑賞をした後、ソーラーカーの製作に挑戦し、全員が完成させました。ソーラーカーに光を当て、実際に走るか実験し、車が走り出すと大きな歓声が沸き起こりました。学習に参加した神之園那帆さんは「新エネルギーがあるのを知らなかったのが良い勉強になりました。大人になったら新エネルギーを使った家に住んでみたい」と感想を話しました。

**芸術・文化の秋! 文化祭開催**

11/3~5

文化協会勝連支部（藏本秀吉支部長主催）の文化祭が2日間にわたり開催されました。

シビックセンターでは展示の部があり生け花をはじめ写真、陶芸、貝細工など丹誠込めて作り上げた多くの作品を展示。きむたかホールでは舞台の部があり、地域の子どもからお年寄り



▲ 勝連支部の文化祭で空手演舞をする子どもたち



▲ 「てーらがー文化展」で展示された数々の作品

まで総勢300人が出演。各地域伝統舞踊など多彩な演目を披露。観客から大きな拍手が送られていました。

また、字平良川公民館（富山安邦実行委員長主催）でも「てーらがー文化展」が開催されました。文化展では、使わなくなってしまった昔ながらの釜や火鉢、木炭アイロンなどの歴史価値の高い物や日頃のサークル活動の成果としての書道や染め物などのほか、兼原小児童らによる巨大な絵も展示され、多くの区民らが昔ながらの品物を懐かしみながら観賞していました。